

思いがけず長引いた梅雨空。肌寒い日も多く、体調を崩された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、先日、横須賀美術館で行われている「せなけいこ展」に行ってきました。『ねないこだれだ』誕生50周年記念の展覧会だけあって、来場者は小さなお子さんからおばあちゃまと呼ばれる年代の方まで年齢層の厚さを感じました。また、休日でしたので、ご家族連れのかたも多かったです。我が家にも、現在アラフォーの子どもたちが小さいときに購入したせなさんの絵本が2冊ほどあり、何度も繰り返して読み聞かせをしたことを懐かしく思い出します。



せなけいこさんは1931年生まれ。もともと絵を描くことが大好きで、美大に進みたかったけれどお母様に反対され、銀行員やコピーライターをしながら、好きな童画作家の武井武雄先生に自力で師事して絵を勉強され、児童書の挿絵の仕事などをしていらっしゃいました。1男1女のお母様で、子育てに奔走していた37歳の時に「あーんあん」で絵本作家デビュー。ご自身のお子さんの出来事がモデルのことも多かったそうで、だからでしょうか、だだをこねたり泣いたりする現実の子どもたちが生き生きと描かれているように思います。また、「面白おかしいばかりが人生でなく、甘いばかりが親じゃない」と幼児に教えることも必要ではないかと考えていらしたとのことでした。

せなさんの絵本は独創的な貼り絵が特徴的です。一気に仕上げなければならない絵の具を使うより、いつでも手を止められる貼り絵のほうが子どもたちの傍らで制作する方法として適していたのだそうです。

せなさん作品の「めがねうさぎ」の緑のチェックの洋服は鎌倉の文房具店の包み紙であることや、大船の鯡の押しずしの包み紙も作品に使われていることを展覧会で知ると、なんだかとても身近に思えてしまいました。



「せなけいこ展」は9月1日(日)まで横須賀美術館で開催されています。

(開館時間：10時～18時 8月5日は休館日)